

# ◆ 各区だより ◆

## 昭和区



### 地域の活気は 高齢者から

市老連が提起した2万人会員増強運動も平成30年度は5年目にあたり、各区もそれぞれの事情に合わせて運動の展開を進めて来られたと思いますが、ほとんどの区でクラブ減少に歯止めがかからない状態が続いてきました。昭和区も例外ではなく、クラブ会長の後継者不足や補助金の手続きの困難さから、不満やクラブの将来への不安はどここの学区連合会も持っていました。

区老連理事会では、区老連全体の雰囲気づくりを進めるため、区政の予算から役員全員の「ベスト」を作り、区と老人クラブのアピールのため出かける際にはそのベストを必ず着用したり、区老連の予算で「のぼり」を作成し、行事のすべてに老人クラブののぼりを立てたりしました。

さらに、区老連の独自の入会案内兼申込書のカラーのチラシを作成し、11学区行事などで配布しました。区政委員長会でも話題にしていたとき、老人クラブの現状を話してきました。役員が率先して、未加入の高齢者加入の呼びかけのため区老連予算で独自に「呼びかけカード」を作成しました。こ



うしたことを学区のそれぞれの事情を踏まえながら、無理をせず、強制することなく4年間進めていく中で、今年4月、8クラブが誕



生することになりました。川原学区で5クラブ、広路学区では、1クラブ減りましたが、理事の頑張りで1クラブ誕生し、伊勝学区や松栄学区では、学区行事などで根気よく未加入の町内に働きかけ、それぞれ1クラブ誕生しました。

川原学区で5クラブの誕生のきっかけは、10年ほど前には、かつて老人クラブが存在していた地域で、「女性会」も活動していましたが、その女性会も役員の高齢化で存続の危機が叫ばれていました。川原学区役員は、地域の高齢者や女性会の活動を絶やしてはいけないと新旧区政委員長の協力を得て、全部の町内会に老人クラブを作ろうと女性会と合同で何回も会合を持ち、各町内会へ働きかけを進めてきました。その結果、女性会の大半の人が老人クラブに入会し、併せて未加入の人も町内会単位で地域づくりに参加しようという呼びかけで参加しました。こうしたことから川原学区の老人クラブの会員は倍増することになり、5クラブが誕生することになりました。

町内会加入率が減少している今日、高齢化社会であるがゆえに高齢者がコミュニティづくりに積極的に参加することで地域の活気が根付いていくのではないのでしょうか。

(竹島 武雄)

## 瑞穂区



### 女性リーダー研修会 あなたなら、どのように 決断できますか？

女性リーダー部会では、毎年10月に学区女性リーダー代表、一般女性会員他の参加をうけて日帰り研修を行っています。今回は参加102名で岐阜県の「命のビザ」で知られる『杉原千畝記念館』を訪ねました。



皆さんは、杉原氏のことをご存知でしょうか？ 岐阜県生まれ少年期を名古屋で過ごした、日本の外交官です。第二次世界大戦中にリトアニア日本領事館領事代理として赴任していた同氏はナチス・ドイツから迫害され、命の危機に面していた多くのユダヤ人に対し、本国の意思に背いてビザを発給。一刻を争う状況で最終的に独断で「命のビザ」を発給したことは、外交官の立場ではなく、人間としてなすべきことを優先しました。杉原氏が発給したビザで

約6千人の人たちが救われたといわれていますが、ただ単に助かっただけでなく、その後の子孫も含めると何万何十万という命を救ったこととなります。帰国後は依願免官となりましたが、日本政府による公式の名誉回復が行われたのは没後14年後、生誕100年後の平成12年10月のことで、昨年10月には功績を称え、母校の愛知県立第五中学校(現・瑞穂高校)に顕彰施設が開設されました。

なお、最後にユダヤ人避難に際しての民間協力にもなれますと、在米ユダヤ人協会の依頼で民間旅行社が日本海の搬送や横浜・神戸港から第三国に送り出すまでの任務を全社を挙げて支えました。

(北村 正信)

